



タコは、どうしてすみをはくの

敵からにげるために、すみをはく

タコとイカは、似ているようですが、実際には、いろいろちがっています。イカは、ふつう、吸いこんだ水を、ジェットふん射のようにふき出し、水中を泳いでくらししています。

タコは、ふつうは、海底で、長い足と吸ばんで岩にしっかりつかまりながら、ふにゃふにゃした体を、のぼしたりちぢめたりしながら、はい回っています。ただし、危険がせまったときは、タコも、水をふき出しながら、ジェットふん射で泳いでにげます。このとき、水といっしょにすみを、もくもくはき出しながらにげます。

タコのすみは、ウツボのきゅう覚をまひさせる

タコのすみは、体内の「ぼくじゅうのう」というふくろの中で作られ、ためられています。イカのすみは、水中で広がりにくいけれど、タコのすみは、さらさらして、水に混ざりやすく、すぐえん幕のように広がり、敵の目をくらませられます。また、タコのすみには、タコのいちばんの敵である、ウツボのきゅう覚(においを感じる)を、感じなくさせてしまうような、はたらきがあり、えん幕以上の効果があるようです。

(監修・安部 義孝)

